

毎日使うトイレットペーパー。みぢかな紙なのに、知らないことがいっぱいです。  
 小学校のろうかで転がしたり、何回も重ねて上からたまごを落としたり、ペーパーホルダーの水をすわせたりしたら、どうなるのでしょうか？

E 『このかみなあに？』 トイレットペーパーのはなし  
 谷内つねお／さく 福音館書店



おかしがいじまんの、カフェ・エルドラド。ある日、魔法の形の手に入らなべでかして、ケーキを作ることになりました。ところが、にえたつなべからチョコレートがたちあがり、なんと魔法にへんしんしたのです。

K913 『チョコレート魔法』  
 カフェ・エルドラド  
 こばやしゆかこ／著 岩崎書店



E 『氷上カーニバル』  
 ひょうじょう



あべ弘士／作  
 のら書店

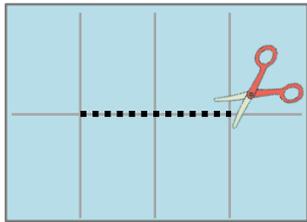
K913 『とどけ、サルハシ！』



葦原かも／作  
 石川えりこ／絵  
 小峰書店

わたしのまちでは、冬のおわりに、氷上カーニバルというおまつりがひらかれるの。冬になると、公園の池がこおって、大きなスケートリンクになるの。夜、大人も子どもも、きらきらしたすてきな服で、氷の上をおどりながらすべるのよ。

図工の時間にテナガザルの絵をかいていたりよう。うっかり友だちの絵をよごしてしましますが、うまくあやまることができません。こうていにとび出したりようの前に、とつぜんテナガザルがあらわれて、話しかけてきました。



紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみだてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館

富山市西町5番1号

電話 076-461-3200

としょかんのホームページもみてね！



2021年  
 2月号



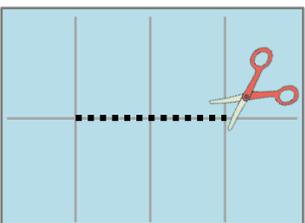
「雪の女王」「親指姫」「はだかの女王」の作者、アンデルセン。小さなころから、父親が読んでくれるおとぎ話が大好きでした。14歳になって、はじめておしほいを見たとき、自分も出たいと思います。故郷の島をはなれ、歌手をめざしますが、声変わり（こゑがわり）で夢をあきらめることに。そのかわりに、詩や物語、おしほいをかぐことに熱中します。

E 『アンデルセンの夢の旅』  
 ハイツ・ヤニツシュ／文  
 マーヤ・カスリック／絵  
 天沼春樹／訳 西村書店



5年生の3学期、唯志は、両親が引っこして、母の故郷の森へ引っこしをすることになり、引っこし先の古い家は、トイしがくみ取り式で、昭和にタイムスリップしたよう。おまけに、雪はようしやなく降り続きます。そんなある日、母の同級生とクラスメイトが、屋根の雪下ろしをするために唯志の家にやってきました。

K913 『ジャンプして、雪をつかめ！』  
 おおきやなぎちか／作  
 くまおり純／絵  
 新日本出版社



紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみだてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館  
 富山市西町5番1号  
 電話 076-461-3200  
 としょかんのホームページもみてね！

わ く わ く  
 本 だ な



2021年  
 2月号

4 5 6 年



K913 『ごいっしょさん』  
 松本聰美／作 佐藤真紀子／絵  
 国土社

「ようかいごいっしょさん」。かみの毛がつんつんして、目がくりくりした男の子。勇気が出ないときに、いっしょにいて、パワーをくれる。」これは、ようかい博士の洋太が、友だちをはげますために作ったものです。それなのに、クラスのみんなが「ごいっしょさん」を見たといいました。